

## 城端線・氷見線沿線地域公共交通計画の実施状況の検証について

城端線・氷見線沿線地域公共交通計画では、計画に掲げる取組みを効果的に実施していくため、PDCA サイクルによる計画の進捗管理と効果の検証・評価を行うこととしており、以下のとおり取りまとめました。

指標 1 城端線・氷見線の 1 日あたり乗車人員			
目 標 値	現状値 (R1 年度)	実績 (R5 年度)	目標値 (R8 年度)
		11,217 人/日 城端線：6,722 人/日 氷見線：4,495 人/日	9,843 人/日 城端線：5,957 人/日 氷見線：3,886 人/日
達成状況の 分 析	令和 4 年度 (9,609 人/日、城端線：5,704 人/日、氷見線：3,905 人/日) と、氷見線では能登半島地震による運休やその後の出控えの影響もあった中、ほぼ令和 4 年度同水準となり、全体では若干増加となりました。目標値に対しては 87.8% (城端線：88.6%、氷見線：86.5%) の達成率となりました。		
今 後 の 取 組 み	城端線での増便試行を継続していくとともに、沿線市のまちづくりと連携した駅及び駅周辺の魅力の向上により、観光客や沿線住民も含めた公共交通需要の底上げを目指します。		

指標 2 地域幹線バスの年間輸送人員			
目 標 値	現状値 (R1 年度)	実績 (R5 年度)	目標値 (R8 年度)
		706,420 人/年	575,846 人/年
達成状況の 分 析	令和 4 年度 (539,554 人/年) から若干回復しているものの、目標値に対して 81.5% の達成率となりました。		
今 後 の 取 組 み	あいの風とやま鉄道や万葉線、北陸新幹線との接続を考慮したダイヤの検討を進めるとともに、市民ニーズに応じた運行内容の見直しや地域が主体となって取組む地域交通の導入を推進し、利用者数の維持向上を図ります。		

指標 3 城端線・氷見線の定期外利用者数割合			
目 標 値	現状値 (R1 年度)	実績 (R5 年度)	目標値 (R8 年度)
		城端線：21.7% 氷見線：15.2%	城端線：22.9% 氷見線：17.2%
達成状況の 分 析	令和 4 年度 (城端線：20.5%、氷見線：15.7%) からは上昇したものの、城端線は目標値に対して 88.1%、氷見線は 86.0% の達成率となりました。		
今 後 の 取 組 み	継続した「べるもんた」での乗客サービスの提供や観光路線バスの運行のほか、沿線の観光地やイベントとの連携やモビリティマネジメントの推進等を通して、定期外利用者割合の上昇を目指します。		

指標4 公共交通利用圏域内の人口カバー率			
目 標 値	現状値 (R3年)	実績値	目標値 (R8年)
		74.1%	—

⇒計画期間終了後（令和9年度）に最終評価として成果検証し報告予定。

指標5 城端線・氷見線とその他鉄道との乗継ぎ満足度			
目 標 値	現状値 (R3年)	実績値	目標値 (R8年)
		城端線：平均評価 2.6 氷見線：平均評価 2.5	—

⇒計画期間終了後（令和9年度）に最終評価として成果検証し報告予定。

指標6 過去1年間に利用した交通手段における城端線・氷見線利用割合			
目 標 値	現状値 (R3年)	実績値	目標値 (R8年)
		城端線：18.5% 氷見線：9.6%	—

⇒計画期間終了後（令和9年度）に最終評価として成果検証し報告予定。

指標7 城端線・氷見線沿線の観光施設入込数			
目 標 値	現状値 (R1年)	実績値 (R5年)	目標値 (R8年)
		425万人/年	410万人/年
達成状況の 分 析	令和4年(353万人/年)からは回復したものの、コロナ禍以前の数値には届かず、目標値に対して87.3%の達成率となりました。		
今 後 の 取 組 み	公共交通機関相互の乗継ぎ改善やMaaSの活用、観光路線バスの維持・拡充を進め、移動利便性を高めます。		

指標8 高齢者の運転免許自主返納者数			
目 標 値	現状値 (R3年)	実績値 (R5年)	目標値 (R8年)
		1,495人/年	1,357人/年
達成状況の 分 析	コロナ禍以降、公共交通機関の利用を避け、自家用車で移動する高齢者が増加した結果、令和4年(1,415人/年)に続いて運転免許の自主返納者数が減少し、目標値に対して71.4%の達成率となりました。		
今 後 の 取 組 み	公共交通機関相互の乗継ぎ改善や市民ニーズに合わせたバス等の運行方法の改善など、運転しなくても安心して暮らせる環境づくりを進めるとともに、運転免許自主返納者へのインセンティブの拡充等の施策を進めます。		